

水産試験場

昭和三十二年二月二十一日夕刊

縣立水産試験場

移轉工事初る

單獨請負に異議紛々

様々の紛議を醸した縣立水産試験場が、馬場上氏請負に
産試験場並に水産講習所の決したもので双方の言分を
移轉工事は愈々四月二十日開くとの様なるものである
から初まる。

敷地は現内務省事務所跡
で其の坪数九百七十
三間程現場の西に移し
て同工事を初める譯で
る。漁網庫無電室、魚
庫の三〇は舊試験場
移し此の建坪約五十五
事務所教室製造室研究
〇十〇は新築で此の建
約三百坪、合せて三百
十坪となる。設計費一
八千八百圓、馬場上氏
が保証金一千八百八十
圓を町に納め、請負工
を行ふ。因みに設計費
一萬一千五百圓は町支
出し他は常町漁業関係
の寄附による。

此の試験場移轉に給んで小
名濱の大字職工、町會議
等は二派に分れて係争し
居たが去る三月十七日の急

然るべきだが、
小名濱大字組合顧問
馬場上太郎氏談
小名濱校改築時以來の争ひ
が今度の工事で尾を引
いて居る譯で大した事
でも無いのだが町で請負
たものなだから見限り入
つて過去の争を清算する
れをやるとか皆に仕事を
分のぞんでやまない。

三井三菱の義捐金による
各町村の共同作業場が未
完成を見ない今日、
江名信用組合の建設に、
下神白共同作業場は既に
三月卅一竣工し四月一日
からは堂々と仕事を始
めてゐる。

主なる建物は精米と精麥
に使用する精米所とそれ
から事務所であるが、設
備費を入れたこの總工費
六百六十一圓内四百七十
四圓は兎作對策といふ意
味から縣の補助が下つた
場所は江名町大字下神白
字千速で精米所は部落民
全部で使つて共同生産の

早くも仕事開始

下神白共同作業場

三井三菱の義捐金による
各町村の共同作業場が未
完成を見ない今日、
江名信用組合の建設に、
下神白共同作業場は既に
三月卅一竣工し四月一日
からは堂々と仕事を始
めてゐる。

主なる建物は精米と精麥
に使用する精米所とそれ
から事務所であるが、設
備費を入れたこの總工費
六百六十一圓内四百七十
四圓は兎作對策といふ意
味から縣の補助が下つた
場所は江名町大字下神白
字千速で精米所は部落民
全部で使つて共同生産の

配してやるとかした方がよ
からうに一人に總請負をさ
せるには不穩當ではなから
う。小名濱大字職工の〇機
小名濱校改築當時の日花見
小名濱に端を發したもので
昭和人組會社事務所、水
産試験場移轉など事毎に争
を續けて来たのである。一
體となつて進むべき人達か
感情の疎隔から事毎に争
ふ。小名濱は個人の爲引つ
ては町の爲にも不利益な事
でも無いのだが町で請負
たものなだから見限り入
つて過去の争を清算する
れをやるとか皆に仕事を
分のぞんでやまない。

配してやるとかした方がよ
からうに一人に總請負をさ
せるには不穩當ではなから
う。小名濱大字職工の〇機
小名濱校改築當時の日花見
小名濱に端を發したもので
昭和人組會社事務所、水
産試験場移轉など事毎に争
を續けて来たのである。一
體となつて進むべき人達か
感情の疎隔から事毎に争
ふ。小名濱は個人の爲引つ
ては町の爲にも不利益な事
でも無いのだが町で請負
たものなだから見限り入
つて過去の争を清算する
れをやるとか皆に仕事を
分のぞんでやまない。

温情なる平署員

さよやう少年に

諭して旅費を與へ
歸郷せしむ

十八日午後六時半頃平署前
附近を途方に暮れながら
ろくしてある少年を平署員
派出所警備隊が呼びよめ
て事情を聞いてとところ
少年は東京市荒川区三河
四丁目銅鐵商杉丸雄太郎
徒弟桑田晋蔵(二)で去月
無事と主家を無断出奔仙
無事と主家を無断出奔仙
無事と主家を無断出奔仙

矢ノ目如來寺

國寶御開帳!!!

夏井村矢ノ目の如來寺は
今より六百余年の昔良人
人様がお開きになつた古
お寺であります當寺に所
善光寺靈試の如來
阿陀三尊來迎佛の大幅
とは共に大正四年三月二
六日甲種國寶に指定され
尊像が佛様であります。

阿彌陀堂

大規模な修理

石城郡内郷村白水の阿彌
尊像が佛様であります。

人事往來

小名濱町字引馬場港邊信
臣君は海軍兵として軍艦
に乘組中急性肺炎にて死
亡の旨十九日電報着、引
馬場の爲家人が横須賀に
急行した。

列車に投石

去十八日午後六時二十一
分頭草野驛發六三三六號
客列車が神谷村大字中
谷の進行中前部より三輛
の石を投げ窓硝子を破
大の石を投げ窓硝子を破
大の石を投げ窓硝子を破

落した金

有るやうに無いやうに
平町番匠町橋本龜吉は去
十八日縣社鐵食神社祭禮
物中同境内の雜音で六圓
中のガマ口を紛失十九日
署に届出た。

轉落慘死

内郷村大字宮字峰根運搬
夫佐藤藤助(七)は十九日午

募集

配達夫數名募集
希望者は至急左に
申込されたし
南町
昭和活版所内
刊 常磐新聞社

『噂のつらみ』 歯科醫憂鬱

拔歯で患者死亡と

江名町大字江名、雜貨店大谷屋の主人大谷徳松君(毛)は敗血症で五日亡くなった。それより十日ばかり前の三月廿六日大谷君は腐れおちた奥のむし歯が痛むのでおき筋向ひの山村齒科醫院にかけつけて残りの根をすつかり取つてもらつたものだ。

ところがそれ以來少量の出徳松君の妻君は消然として血が續いて止まらず齒科醫院も起を投げて同町平川内科醫院の手に移したが一時は止まつても又あとから出るので更に平町志賀醫院、木村、若松醫院と次々に換へて見たがとうとう、駄目、四日夜は敗血症と確定して輸血までしたが四十度の高熱が續いて翌朝遂に死亡した。

各醫師の意見を綜合して見ると齒を抜いたから敗血症になつたわけのものではないと云ふが、それからはあの醫者にかゝると命まで抜かれると云ふ評判が立つてしまつた、勿論理解のある人は續けて通院してゐる人は續けて通院してゐるが參つたのはお醫者さんで訪問すると憂鬱な顔で語るさういふ噂のあるのは事實ですけれども私としては設備を最善に利用して

恨みはせぬ
妻女の談

にわかに未亡人となつた徳松君の妻君は消然として

別にあなたのお醫者さんの爲に死んだとは思はないのですけど、その前は人一倍丈夫で働いてゐたもの虫歯にならなかつたらとそんな事ばかり考へましてと目をうるましてゐた。

因みに敗血症といふのは卵の黄味が崩れてドロドロになり、それが血の中を血球が破壊されて一旦出血するとうとう止まらなくなるといふので、勿論外から入つた細菌のために起る九條竹子夫人もこれで亡くなつた。



刷印
昭和
平・商

良品賣に勝る商略なし

磐城セメント特約代理店

釜屋商店

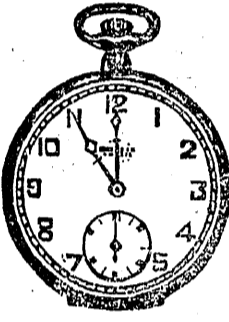
磐城平町五丁目
電話九番・九九番
東京磐城貯金口座一〇九五六

製作品種目
高圧タービンポンプ
電動捲揚機
コンクリートポンプ
送炭用チェーンコンベヤー
風機
機械

改良術技
廉價品良

吉田伴吉商店

福島縣平町字室前
吉田伴吉商店東京出張所
東京市京橋區入舟町三丁目
電話東京五二二三番



各國時計各種 小名濱町中島通り
指輪、眼鏡、蓄音器、ラヂオ
附屬品一式
修理、正、迅

内山時計店

電話四十九番

各種發電機
各種蓄電池
各種修理
各種電球
各種電氣

第一切親

磐城小名濱町
スマヤ電氣部
ケーエス商會
店主 小濱敬太郎
電話一五九

快鼻湯

保有効
能効
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症、頭重、肥厚性鼻炎に靈効あり
其他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に偉大な神効ありと賞賛されて居ります

快鼻湯製造發賣元
磐城國平町一丁目
責任製藥者藥劑師 水野清一

水野藥局

高醫一
療般級
粧器藥賣
品具品藥

寶屋藥舖

小名濱町古港
電話三十九番

クスリと御相談は
家庭醫療の親切の店

白石藥舖

小名濱町中島通り 電話三三番

魚市場、鑽油部

磐城水産工業株式會社

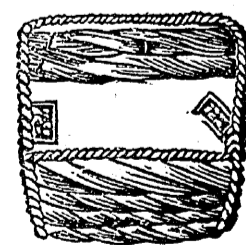
社長 小野 伊平
支店長 福尾 晋太郎
小名濱町 電話一四四番
三井生命保險株式會社代理店
大正火災保險株式會社代理店

小名濱分院開設
耳鼻科 毎週月、水、金、土、日、午後五時出診
咽喉科 専門
本院平町南町一六番電話一七〇番

大和田醫院

……は酒銘
清世界

本店屋水清 元寶發



齒科一般
口腔外科

木田科齒醫院

小名濱町電話一〇五番

內科、小兒科
婦人科、花柳病科

久保田醫院

小名濱町 電話二二番

內科・外科
花柳病科
小兒科

會田醫院

院長 會田 亮
小名濱町上横町

口腔外科
齒科一般

池部科齒醫院

江名町